



News Letter



第7号

大阪日米協会/JAPAN-AMERICA SOCIETY OF OSAKA

〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-13 Tel:06-6263-9753, Fax:06-6263-9773
http://www.jaso-1946.com E-mail:jaso@takenaka.co.jp

会長就任のご挨拶

大阪日米協会
会長 竹中 統一

このたび西村前会長の後任として、大阪日米協会の会長を拝命いたしました。半世紀を超える歴史と伝統のある当協会の運営を担うこととなり、身に余る光栄に存じますとともに、その責任の重大さに身の引き締まる思いが致します。ご存知の通り、当協会は1946年、「日米両国民の親睦と相互理解をはかり、文化の交流に寄与すること」を目的に設立されました。企業間や市民同士といった様々な民間レベルでの交流活動を活発に行ない、ビジネス面、文化面ともに日米の良好な関係構築に大いに貢献されてきたと認識しております。いよいよ来年は設立60周年の節目を迎えますが、国際社会における日米関係が今後一層重要になることは論を俟たないところであり、従って日米友好の架け橋として当協会に期待される役割も益々大きくなるものと思います。諸先輩方の築いてこられた歴史と伝統を受け継ぎ、会員の皆様のご期待に添えるよう最善の努力をさせて頂くつもりでございますので、これまでと変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2005年度 理事会・総会・懇親会開催

7月22日、リーガロイヤルホテルで理事会・総会・懇親会を開催しました。理事会では西村会長を議長として議事を行い、理事・役員等の改選、会則一部付記等の議案を総会に附議することを承認しました。引き続き総会で各々の議案が審議され、承認されました。また、新会長に竹中統一氏が選出されました。8月上旬、会員の皆様に決議書を発送いたしました。理事会・総会の後、懇親会が開催され、弦楽カルテット「クレール」による両国歌演奏の後、竹中新会長、アルマゾフ総領事、神長大使のご挨拶、さらに大平大阪市助役に乾杯のご発声を頂戴して、午後8時過ぎまで楽しい歓談のひとつきを過ごしました。



大阪日米協会 役員・理事

会長

竹中 統一

第一副会長

松下 正幸

副会長

カンパネラ・フィリップ A

バート・ジュリアン F

ライコク・クリス

江崎 勝久

監事

高木 将雄

早川 康

幹事

福永 勝也

理事

安藤 幹雄 大林 剛郎

福地 茂雄 佐伯 尚考

古市 実 刺賀 信雄

幡掛 大輔 千 玄室

細川 益男 芝野 博文

稲畑 勝雄 柴田 稔

井上 礼之 柴田 俊治

伊藤 英吉 武田 國男

出馬 迪男 田嶋 英雄

川上 哲郎 辰馬 章夫

鴻池 一季 鳥井 信吾

森 輝彦 佃 孝之

村上 仁志 上山 英介

西村 貞一 銭高 一善

スケジュール

2005年 11月5日(土)

秋の日帰り旅行 ～古都奈良を訪ねて～

法隆寺・平城宮跡大極殿見学

法隆寺では特別に管長のご講話をいただき、大極殿では復元工事中の建物をご覧いただきます。

*総会後の懇親会でご案内いたしました唐招提寺拝観は都合によりなくなりました。



事務局移転のお知らせ

大阪日米協会の事務局が次の通り変更になりました

新事務局 〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-13

T E L : 06-6263-9753

F A X : 06-6263-9773

E-mail : jaso@takenaka.co.jp

事務局長：黒川 省二

事務局員：須賀 順子・池田 ひとみ

大阪市より

関大阪市長が6月11日から17日にかけて、米国のシカゴ市、サンフランシスコ市を訪問し、世界的知名度の高い関西の家電メーカーの協力もいただき、官民一体となった“大阪プロモーション”を実施してまいりました。約250の全米市長が参加した第73回全米市長会議総会に、主催都市であるシカゴ市のデイルー市長の招待で参加、同市の姉妹都市を代表して挨拶を行い、国際都市、大阪を大いにPRしてきました。大阪にとって、今年はロボカップ2005大阪世界大会の開催、ロボット、IT、ユビキタスを備えた都市づくりを行う大阪駅北地区開発のスタートとなる重要な年であることから、この訪米の機会を活用して、世界的なIT関連企業をターゲットに大阪駅北地区への事業進出のためのプロモーションを展開してきました。また、2007年にはサンフランシスコ市と姉妹都市50周年を迎えることから、同市のニューサム市長と面談して、50周年事業を市民や企業を巻き込んだ意義のあるものにしていくことを確認しました。最後に、カリフォルニア州のシュワルツネッガー知事と会談し、同州と大阪のIT企業、大学の交流について意見交換をしてきました。このように、今後とも“大阪情報”を積極的に発信し、大阪の知名度アップや海外からの企業進出・投資につなげていきたいと考えております。



カリフォルニア州知事との懇談



シカゴ市姉妹都市を代表してスピーチを行う関市長

駐大阪・神戸
米総領事館
総領事
アレクサンダー・
アルマゾフ

アルマゾフ総領事の退任のご挨拶

私の意識ではまだ3ヵ月しか経っていないという感じがしますが、早いもので大阪に赴任してからいつのまにか3年が過ぎ、もうすぐ皆さんとお別れしなければなりません。今回の日本勤務は私にとって3回目、大阪勤務は初めてでした。この間、担当地域の人たちの素晴らしい出会いがあり、私の28年にわたる外交官キャリアの中で、最も楽しく、印象深く、かつ意義深いものとなりました。思い起こせば、日米関係151年の歴史の中で、両国の関係が最も良好な時に、大阪に勤務できたわけで、その点において私は本当に幸せだったと思います。この3年間、私と私の家族に対して頂戴した皆さんの数々のご厚情に対し、心から感謝を申し上げます。大阪日米協会がこれからも益々発展し、さらに草の根レベルで日米関係の発展に貢献されることをお祈りして、私のメッセージと致します。本当に、長い間ありがとうございました。



会員便り

連絡先 大阪市姉妹都市交流協議会
TEL: 06-6772-9670 FAX: 06-6772-9790
<http://www.sistercity.net/SanFrancisco/>

アラバマの小学校

中村 允人 さん
(豊中市)

1976年3月末、大阪の公立病院の内科医だった私はある縁で米国・アラバマ大学から客員助教授として招かれ、妻と2人の子供とともにアラバマ州バーミングハム市に赴任しました。仕事のこともさることながら、一番の気掛かりは小学校6年生の娘と4年生の息子の教育のことでした。現地は日本人の少ない所で、日本語学校などあるはずもなく、ともかく子供たちと地元の小学校へ下見に行きました。勝手がわからず校門の辺りでウロウロしていると、先生とおぼしき中年の女性に話しかけられました。そこで、子供たちは英語ができない、どうしたものだろうと相談すると、彼女はほほえみながら、「言葉のことなど no problem, さあ、こちらへいらっしゃい！」と息子を手招きし、近くにいた現地の生徒たちと一緒に校庭へ。その日の夕方、言われた時刻に校門まで迎えに行くと、息子はまるで何年間もこの学校に通っていたかのように、新しい友人たちとふざけ合いながら元気に出て来ではありませんか！英語の不自由な子供を実に上手に受け入れる、さすが人種の垣根(のつぼ)と言われるアメリカの小学校とつくづく感心しました。そして声をかけて下さったAcorn先生(偶然にも息子のクラス担任でした)に心から感謝したものです。わずか2年間の滞米でしたが、子供たちはそれが縁で2人とも英語を生かした仕事をしております。

Once Upon a Time in America “むかし むかし アメリカで”

横山 巖 さん
(芦屋市)

これは、1984年に製作された映画の題名です。邦題はなんとそのまま「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ」。(ですが、映画とはまったく関係がなく、私自身の思い出を書かせてもらいました。時は映画製作と同じ1984年、私はアメリカ・カリフォルニア州のあるビジネススクールに留学する機会を得、喜び勇んで出発しました。現地での授業は朝8時から夕方5時まで、後は山ほどの宿題と予習。午前3時まで頑張っても追いつきません。カリフォルニアの空は真っ青ですが、私の心も「真っ青」。果たして卒業できるのやら、心もとない限りでした。体よくGive upするには、休日にメキシコに行くことか(学生ビザは当局に手続きせずに外国に行くことと国外追放となる)なんてふらふらなことを考えているうちに、なんとか必要単位を取得し、めでたく卒業式の案内が届きました。その案内状をよく見ると「Commencement Ceremony」と印刷されている。アメリカ映画の「卒業」も「The Graduate」だったから意外に感じました。辞書を引くと、Commencementとはフランス語からきた単語で「開始」、「米国の大学の学位授与式」で、「業を終える」という意味はない。一方、Graduationは「格付」、「学位授与」、「より高位の段階に行くこと」、「正規の教育を終えること」の意味なので、日本語の「卒業」に近い。そこで考えた。そうだ、学校教育を終えることは次の段階への「開始」ということなのだ。「むかしむかしアメリカで」の体験、ともかくこんなことにもいたく感銘を受けたことを思い出します。

北野 登己郎 さん
(富田林市)

お菓子を通じて、友好を・・

私は富田林市で製菓業を営んでおりますが、私の所属する業界の青年部組織「大阪製菓青年クラブ」は昨年、創立50周年を迎えました。このクラブは毎秋、大阪市健康福祉局を通じて、府下33ヵ所の児童福祉施設の子供さんたちに、私たちがつくったお菓子をプレゼントしています。この活動を、「愛の菓子運動」と名づけ、40年以上にわたって続けております。そして今回、クラブの50周年を記念して、「ボランティア精神の継続」「大阪市、サンフランシスコ市の姉妹都市友好」「お菓子の海外への紹介」をテーマに掲げ、記念事業「愛の菓子inサンフランシスコ」を実施いたしました。その一環として昨秋、現地におもむいてサンフランシスコ市の学校、保育園、児童福祉施設にお菓子の詰め合わせ600人分をプレゼントし、友好を深めてまいりました。現地の子供たちの笑顔を見ることができて、とても有意義なひとときをすごすことができました。ちなみにクラブのホームページ、<http://www.okasiya-net.jp>を紹介しておきます。



会長のひとりごと

5月に家内とサンフランシスコを訪れました。大阪の姉妹都市であるサンフランシスコは、2007年に「姉妹都市50周年」を迎えます。お目にかかったキャサリン・キムラさんや原丈人さんなど現地姉妹都市協会の人々は、文楽の招致を目指して大変盛り上がりしていました。上方文化の代表格である文楽が、サンフランシスコのみならず他の都市も含め、日米の文化の掛け橋として役割を果たすことは大変意味深いと思います。また、20年ぶりにベブルビーチを訪れましたが、そのたゞまいは昔のままで、相変わらず美しいグリーンと素晴らしい海岸風景が広がっております。しかしながら、プレー費の高騰や周辺のカーメルやセブンティンマイルドライブの超高級住宅群を見るにつけ、依然として堅調なアメリカ経済を目の当たりにした気がしました。



<原稿について>

原稿締切：掲載希望月の前月20日頃 送 付：郵便、Fax、E-mailにて事務局宛送付
写 真：できればデジタル画像が望ましい 文 字 数：日本語⇒500文字程度 英文⇒250word程度

◆新入会員紹介◆

個人会員

田中 裕子(大阪市) 和田 有弘(京都市)

投稿規定

大阪日米協会の会報誌への投稿(寄稿を含む)規定は次の通りです。

1. 投稿の原稿は日本語と英語でお願いします。
2. 投稿頂いた原稿は返却しません。但し写真やイラストはご指示に従い返却致します。
3. 投稿された原稿の選択と原稿の短縮や修正は大阪日米協会の判断にお任せ下さい。
4. 投稿される原稿は社会的・文化的・芸術的・国際的ななど、本会の目的に合う内容をお願いします。
5. 投稿者の中から抽選で粗品を差し上げます。発送をもって、発表に代えさせていただきます。

編集後記

7月22日に行われた2005年度総会で事務局が交代となりました。これに伴い、山口雅由前事務局長には名誉事務局長にご就任いただきましたことをここに報告いたします。さて、今号は新事務局が、前事務局の多大なご協力を頂いて編集いたしました。この場を借りて御礼申し上げます。加えて、2005年度より会報誌は季刊とさせていただきますことになりました。皆様に喜ばれる充実した内容となるように精一杯努力いたしますので、今後とも変わらぬご協力のほどお願いいたします。(事務局)



News Letter



Vol.7

大阪日米協会 / JAPAN-AMERICA SOCIETY OF OSAKA

4-1-13, Hom-machi Chuo, Chuo-ku, Osaka, 541-0053, Japan Tel : 06-6263-9753, Fax : 06-6263-9773
http://www.jaso-1946.com E-mail:jaso@takenaka.co.jp

President's Message



Toichi Takenaka,
President of JASO

It is my great honor to be appointed president of the Japan-America Society of Osaka to succeed Mr. Nishimura. I am humbled by the great responsibility of managing this Society, which has more than half a century of distinguished history. As you may know, JASO was established in 1946 to "promote friendship, mutual understanding and cultural exchange between the peoples of Japan and the United States". I understand that the Society has greatly contributed to the construction of friendly relations between our two nations on both the business and the cultural side through vigorous civil exchanges among businesses and citizens. Next year we will reach a milestone of the 60th anniversary. There is no doubt that Japan-US relations are becoming even more important in the international community, and I think that JASO is expected to play a greater role as a bridge of friendship across the pacific. Carrying on the traditions established by our former presidents and members, I am determined to make every effort to meet your expectations. Thank you very much for your continued support and cooperation.

2005 Annual Directors' & General Meetings and Reception

JASO held the Annual Directors' Meeting at Rihga Royal Hotel on July 22. President Nishimura was appointed chairman of the meeting. The directors agreed to submit the agenda including Election of Directors and Officers and Additional Statement of Articles to the General Meeting. The General Meeting approved all the agenda and Mr. Toichi Takenaka was newly appointed president. The reception was held after the meeting. Starting with two national anthems played by Claire, the string quartet, new President Takenaka, Consul General Almasov and Ambassador Kaminaga gave a speech, followed by a toast by Deputy Mayor of Osaka, Ms. Ohira. The participants enjoyed the party until after 8 pm.



Officers and Directors as of August 31, 2005

President

Takenaka Toichi

Senior Vice President

Matsushita Masayuki

Vice President

Campanella Philip A

Burt Julian F

Laycock Chris

Ezaki Katsuhisa

Treasurer

Takagi Masao

Hayakawa Yasushi

Secretary

Fukunaga Katsuya

Director

Ando Mikio

Fukuchi Shigeo

Furuichi Minoru

Hataake Daisuke

Hosokawa Masuo

Inabata Katsuo

Inoue Noriyuki

Itoh Eikichi

Izuma Michio

Kawakami Tetsuo

Konoike Kazusue

Mori Teruhiko

Murakami Hitoshi

Nishimura Teiichi

Obayashi Takeo

Saeki Naotaka

Sasuga Nobuo

Sen Genshitsu

Shibano Hirofumi

Shibata Minoru

Shibata Toshiharu

Takeda Kunio

Tashima Hideo

Tatsuuma Akio

Torii Shingo

Tsukuda Takayuki

Ueyama Hidesuke

Zenitaka Kazuyoshi

Upcoming Events

November 5 (Sat)

Autumn Day Trip to Nara

Horyuji Temple and Daigokuden Hall at Heijo Palace Site
We are visiting Horyuji Temple, designated World Heritage, and the reconstruction site of Daigokuden Hall at the ancient Heijo Palace Site.

※Please note that visit to Toshodaiji Temple, announced at the general meeting reception, was changed to Horyuji Temple.



New Executive Office

Our executive office has moved to :
Japan-America Society of Osaka, Executive Office

4-1-13, Hom-machi, Chuo-ku, Osaka, 541-0053

TEL : 06-6263-9753

FAX : 06-6263-9773

E-mail : jaso@takenaka.co.jp

Secretary General : Shoji Kurokawa

Secretary : Junko Suga, Hitomi Ikeda

Mayor Seki Visits Chicago and San Francisco

Mayor Seki promoted Osaka during his visit to Chicago and San Francisco from June 11th to 17th with the support of a world renowned electronics company in the Kansai region. Upon invitation from Mayor Daley, Mayor Seki participated in the Chicago-hosted 73rd Annual U.S. Conference of Mayors where about 250 mayors from across America gathered. Representing Chicago's sister cities, Mayor Seki presented Osaka as an international city. In Chicago, Mayor Seki also promoted RoboCup 2005 and the start of development of the Osaka Station North District, an unused cargo area located in the heart of the city, into a center for robotics, IT, and ubiquitous technology to draw major IT-related industries to begin projects at the Osaka Station North District. In San Francisco, Mayor Seki discussed with Mayor Newsom the 50th anniversary of Osaka - San Francisco Sister City relations in 2007 and agreed that much citizen and business involvement is crucial. Lastly, Mayor Seki also met California Governor Schwarzenegger, and spoke about topics such as IT businesses in Osaka and California and university exchanges. It is our hope to further promote Osaka internationally, leading to business advancements and investments in our city.



Meeting with Governor Schwarzenegger



Mayor Seki making a speech in Chicago

Those interested should contact : Osaka Sister City Network
TEL:06-6772-9670 FAX:06-6772-9790
<http://www.sisterc.net/SanFrancisco/>

Member's Column

Tomio Kitano
(Tondabayasi)

"to contribute a friendship of Osaka and San Francisco cities as sister cities" and "to introduce our sweets abroad". Last October, we visited schools and handicapped schools in San Francisco and donated 600 gift boxes of our sweets to kids the students. We encountered lots of difficulties in planning and carrying out our gift giving activity in SF. Our passion, efforts and the lots of cooperation from Osaka and SF cities and the sister city association made us come through successfully the 50th Anniversary overseas event. Finally we experienced impressive smiles from kids in San Francisco. In detail you can see in our homepage <http://www.okasiya-net.jp>



Elementary School in Alabama

Obuto Nakamura
(Toyonaka)

It was at the end of March in 1976 that I moved to Birmingham, Alabama with my wife and two children. I was a physician at a public hospital in Osaka and had an opportunity to be invited to the University of Alabama as a guest associate professor. Aside from my work, my biggest concern was the school that my 6th grade daughter and 4th grade son would go to. There were few Japanese in the region and, of course, no Japanese schools. We intended to wait until the new semester after the summer vacation, but I was so concerned that I went to have a look at the local school with my children. When we were wondering around the school gate, a middle aged woman, apparently a teacher, talked to us. I told her that I was worried about my children, who didn't understand English. She laughed out loud and said, "No problem. Just come on in!" She invited my son into the classroom along with other students. Later that day I went to pick up my son at the gate as told, feeling a little nervous. He came out in high spirits, fooling around with his new friends as if he had been in this school for years. I was impressed by their capacity to take in children with language difficulties and realized that the United States really was a melting pot of ethnic groups. I felt very grateful to Ms. Acorn, who talked to us and happened to be my son's homeroom teacher. Although we stayed in the US only for two years, both of my children are making use of their English ability at their work now.

Alexander Almasov
Consul General
of the United States
of America
Osaka-Kobe

CG Almasov's Farewell message

It is so difficult to believe that three years have already passed since I came to Osaka to serve as Consul General, it seems more like three months and I must already take my leave from all of you. This tour was my third in Japan, though my first in Osaka, and in my twenty-eight years in the foreign service I cannot imagine a more enjoyable and memorable tour of duty. I was most fortunate to be able to serve in Osaka at the beginning of the twenty-first century, a time when relations between the United States and Japan are at their best in their 151-year history. Thanks to our friends in the Japan-America Society of Osaka, my family and I have enjoyed our life in the Kansai immensely, and I want to thank all of you on behalf of all of us for your warmth and kindness, and for bringing us closer to the heart of Japan, where you have the happy fortune to live. In closing, I want to take this opportunity to wish all of you in the Japan-America Society of Osaka many years of ever greater friendship among Americans and Japanese, and health, wealth, and happiness always.



Once Upon a Time in America

Iwao Yokoyama
(An Ashiyanian)

This is the title of a movie which was produced in America in the year 1984. My topic today, however, has no relation with this film; but it is truly to depict a memorable experience of mine. The same year in which this movie was first released, I was given an opportunity to study overseas in a business school in California where I arrived with great excitement. Classes were held from 8 AM to 5 PM. Awaiting me after that were loads of homework plus pre-studies. Studying up to 3 AM was not enough. The Californian sky was always really blue; so became my own feelings! Am I going to survive, I felt. Isn't there a disguised smart way to "give-up" without feeling the humiliation of a dropout? Good idea might be traveling to Mexico during holidays (Student visa becomes void resulting in one's deportation from America if proper procedures not taken). My mind swayed this or that, but after all, having passed class requirements I received an invitation to the graduation ceremony, written in English of course. What strongly jumped into my eyes then was the printed expression "Commencement Ceremony". Wait a second, wasn't "The Graduate" the original title of Dustin Hoffman's movie which carried the Japanese translated title version of "Sotsugyo", meaning completion of study? I then consulted a dictionary. It said that "Commencement" derived from French means "Beginning", or a degree/diploma conferring ceremony of an American university. It also said that "Graduation" is a classification in order of degree or quality or maturity, elevation to a higher level of accomplishment, or the phase completing one's formal education course. Although the third interpretation of "Graduation" is similar to that of "Sotsugyo" in Japanese, there is no meaning of completing studying in the word "Commencement". Yes, in summary, what I recall vividly in my memory when I was "Once Upon a Time in America" is the moving moment when I realized the true meaning of "Commencement"; namely that school study completion leads just to the beginning of advancement to a next higher stage of studies!

Soliloquy

I visited San Francisco with my wife in May. San Francisco is a sister city of Osaka and will mark the 50th anniversary of the sister city relationship in 2007. I met some people from the local sister city association such as Ms. Kathleen Kimura and Mr. George Hara, who were very excited about inviting Bunraku. Bunraku is Japanese traditional puppet play and one of the major cultural assets of Osaka area. It is very meaningful that Bunraku plays the roll of a cultural bridge between Japan and the United States through performances in San Francisco. I also went to Pebble Beach for the first time in 20 years. Beautiful greens and great Californian coast views were the same as I remembered. However, the golf fees have risen considerably and there were high-end residential areas nearby in Carmel and 17-Mile Drive, which seemed to reflect the strong US economy.



Flow of News Letter to be published

Dead Line of Contribution : 20th day of previous month for planned publication

Number of words : Japanese ⇒ about 500 characters

Photograph : Digital picture if possible

English ⇒ about 250 words

Dispatch Method : Mail, Fax or E-mail to JASO office

New members

Individual Members

Tanaka, Hiroko (Osaka) Wada, Yukou (Kyoto)

Contribution rules

Contribution rules on the JASO News Letter

The following are the contribution rules to the JASO News Letter.

1. We would appreciate it, if you would write your manuscript both in English and Japanese.
2. The contributed manuscript will not be returned to you. However, we will return the photographs and illustrations if you wish.
3. Please understand that the JASO Office will judge the selection of the manuscripts among those submitted and also for editing.
4. The manuscript distributed will be in accordance with the aims of the Society, i.e., social, cultural, artistic and international events.
5. Contributors will be awarded gifts, picked by lottery.

Notes The executive office of JASO has changed as of July 22, 2005. Former Secretary General Masayuki Yamaguchi has become Honorary Secretary General accordingly. We are very grateful to the former executive office members for their enormous support for this issue. Our news letters will be issued quarterly from now on. Thank you for your continued support for interesting and informative news letters. (JASO Office)